

児童の学力と ウェルビーイングを高める 学級経営実践

愛媛大学大学院 教育学研究科

教育実践高度化専攻 リーダーシップ開発コース修了生

新山圭一

研究の背景

- 第4期教育振興基本計画のコンセプトで日本社会に根差した**ウェルビーイングの向上**が掲げられている。
- 全国学力学習状況調査で、A県小学校の**学力順位は低下**傾向。
(2021年10位、2022年12位、2023年18位)
 - ⇒ **幸福感**と**学力**を高めることが喫緊の課題である。

研究課題

- 1、児童の**幸福感**と**学力**の間に**相関**はあるのか明らかにする。
- 2、児童の**幸福感**と**学力の両立**を図るために必要なものはなにか。
- 3、教師のウェルビーイングの向上に必要なものはなにか。

研究の対象

- A県B小学校**児童** 3年生～6年生（約500名）
- A県B小学校の3年生～6年生**学級担任**（男6女10計16名）
（4学年×4学級）

研究の方法

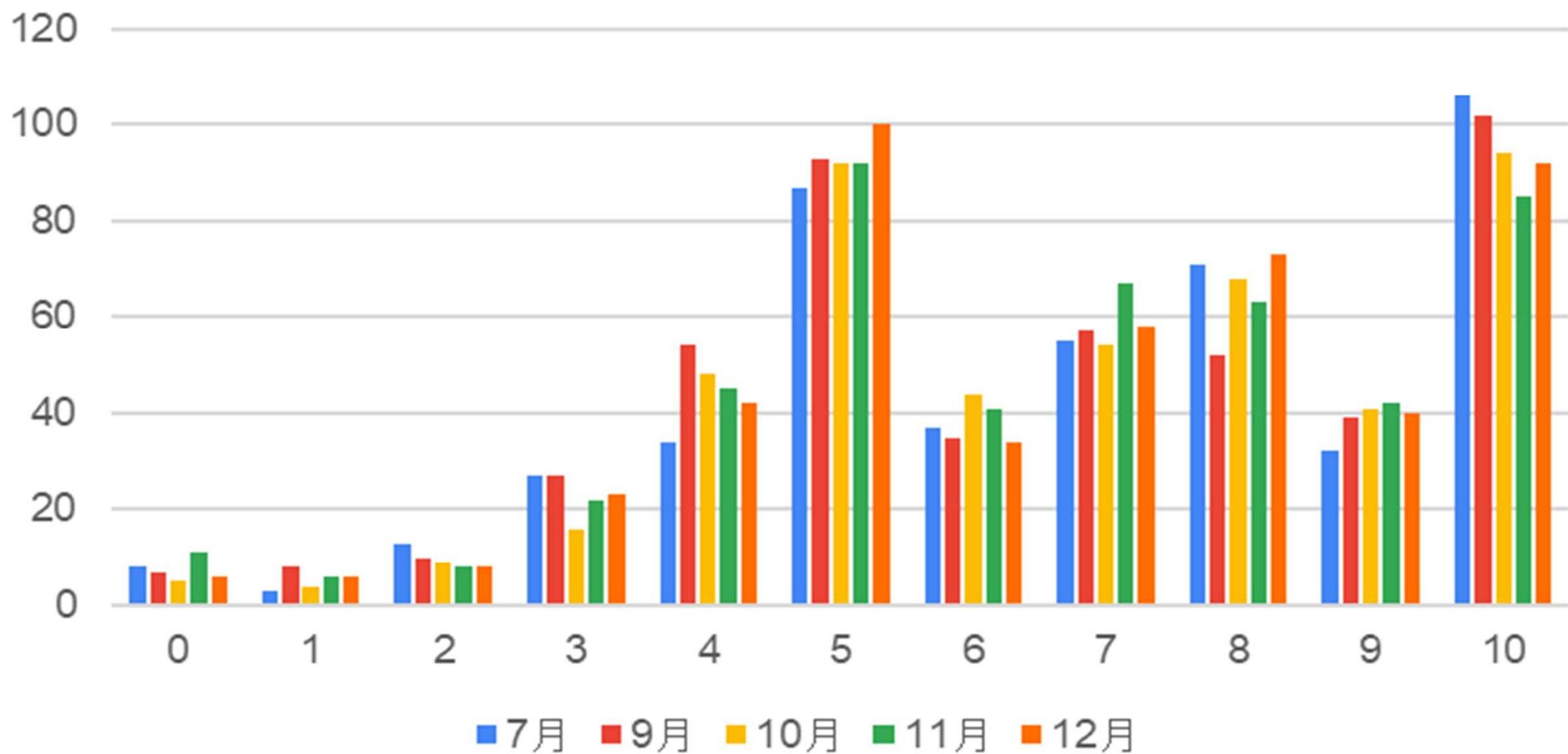
- 幸福度は、児童に**毎月一回アンケート**を取る。
(学校でのあなたの幸福度はどのくらいですか？11件法)
- 学力は、A県の**CBT方式のテスト**を使用する。
 - 7月・9月 10分間チャレンジテスト（3年～6年）
 - 11月 ふりかえりテスト（3年・4年・6年）
 - 12月 A県学力調査（5年）
- 毎月、結果を学級担任に渡す。
同時に学級の様子について**ヒアリング**を行う。

研究課題 1

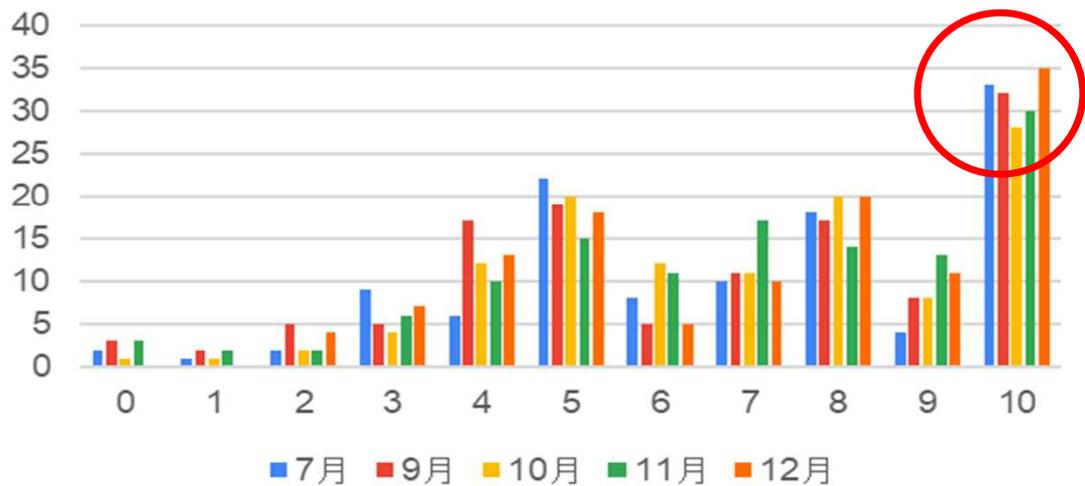
児童の幸福感と学力の間に相関はあるのだろうか。

幸福感分布推移

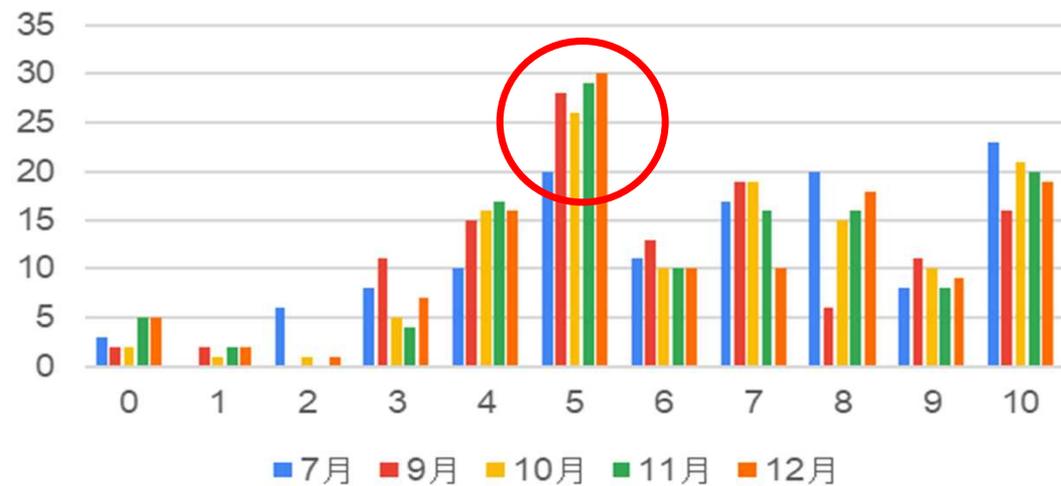
(人数)



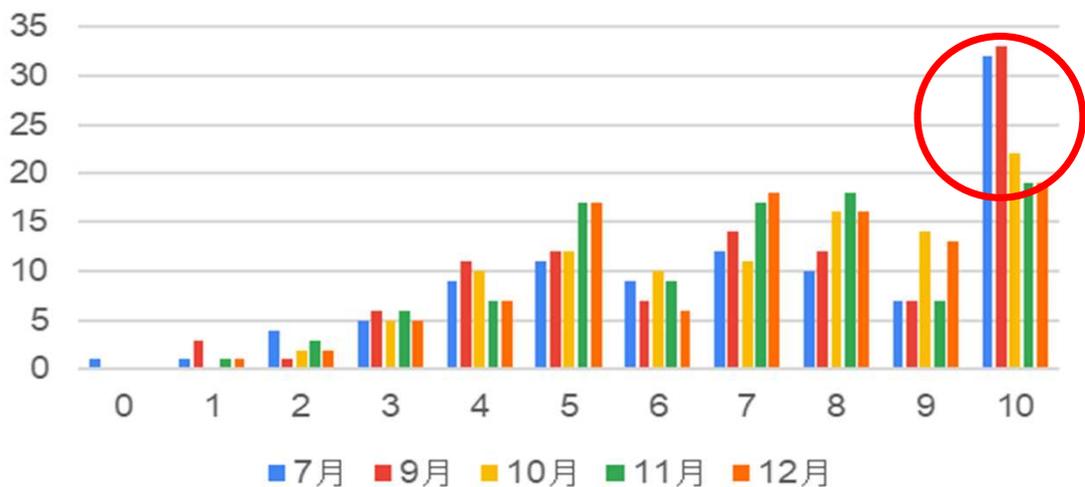
3年幸福度



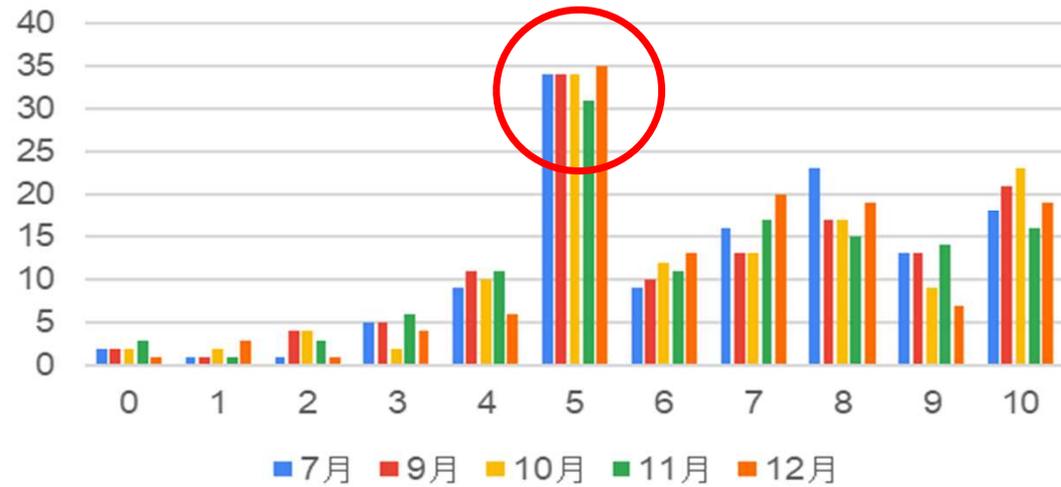
4年幸福度



5年幸福度



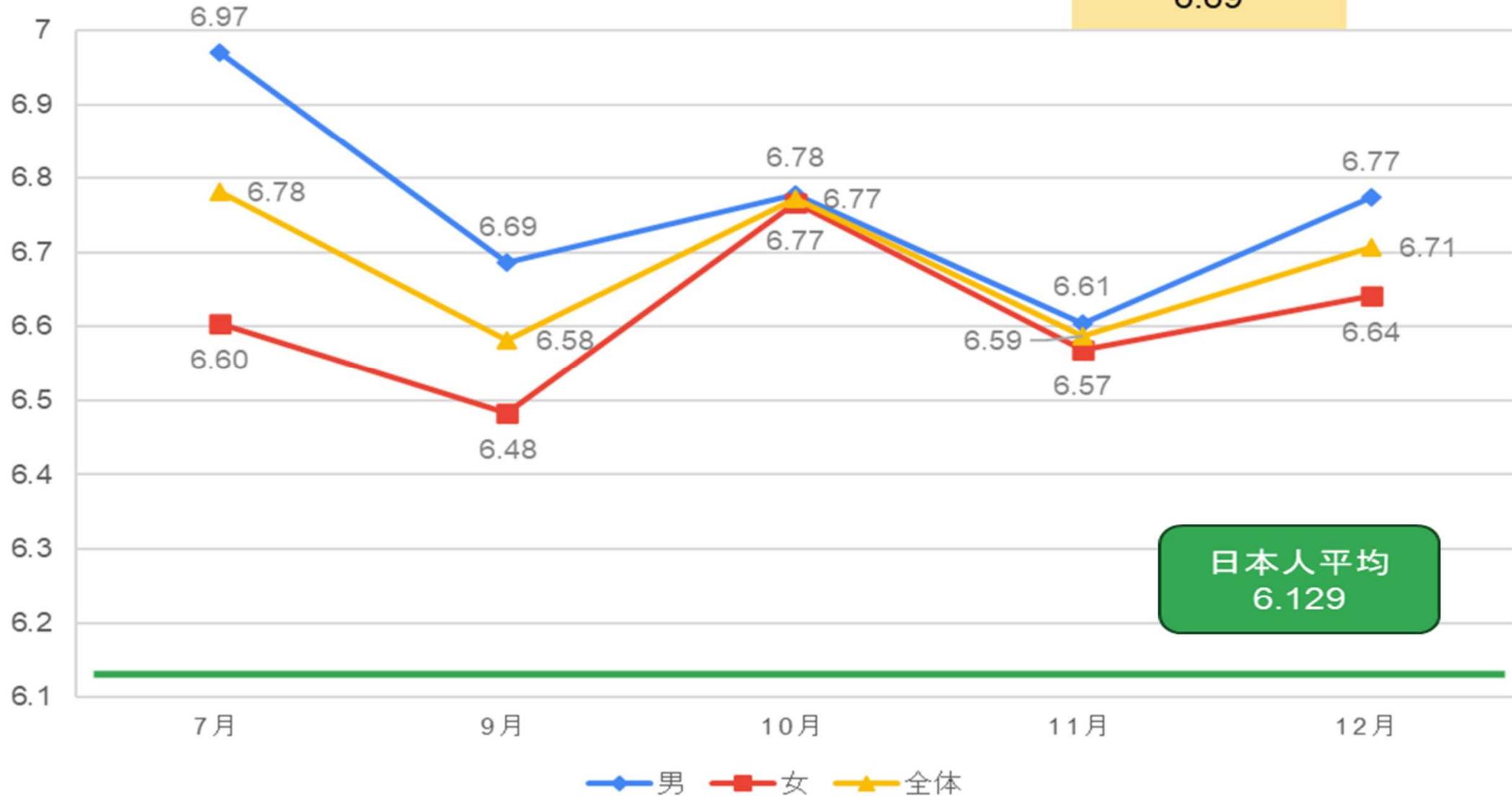
6年幸福度



幸福感推移

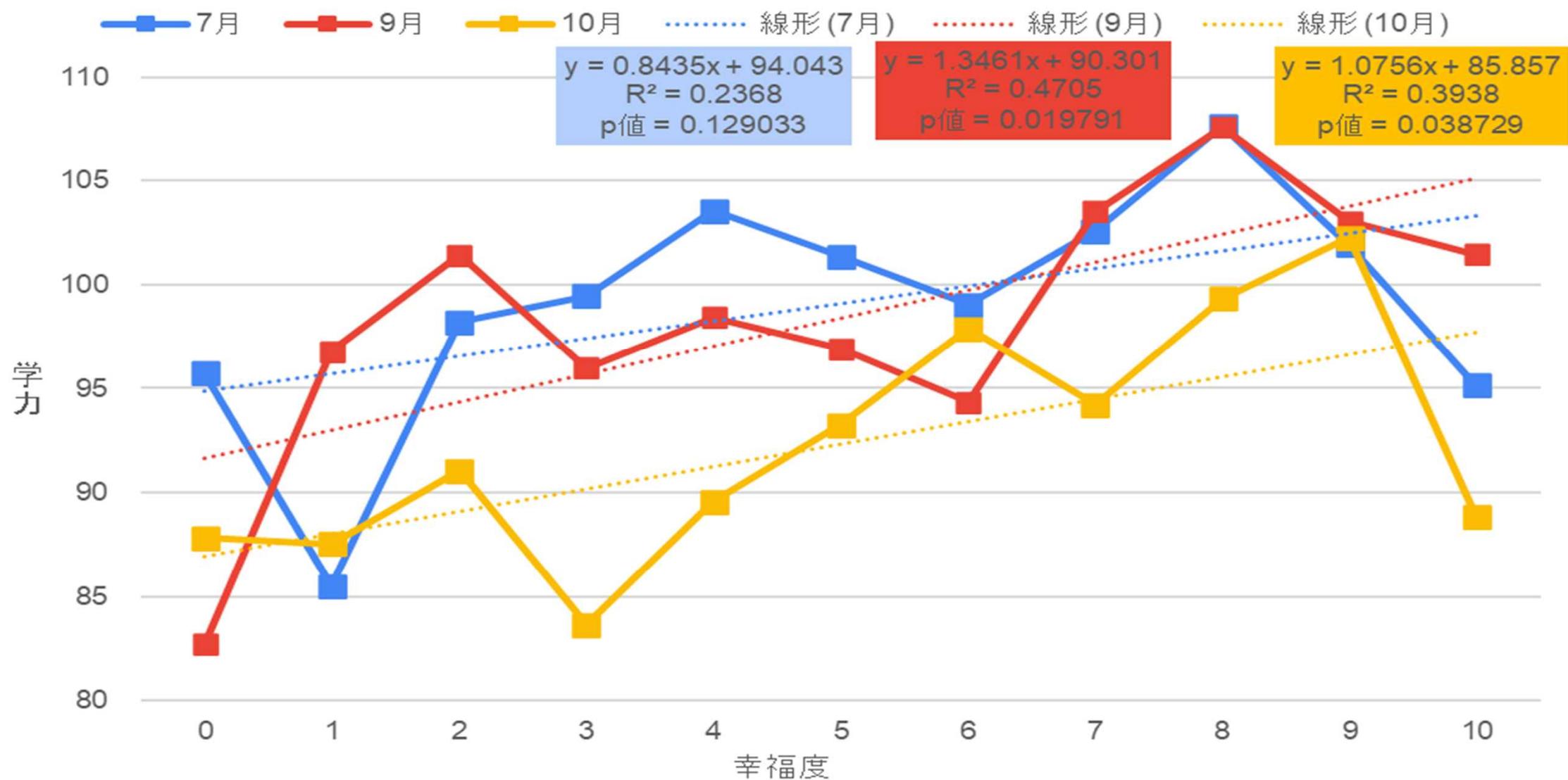
B小学校平均
6.69

児童幸福感



日本人平均
6.129

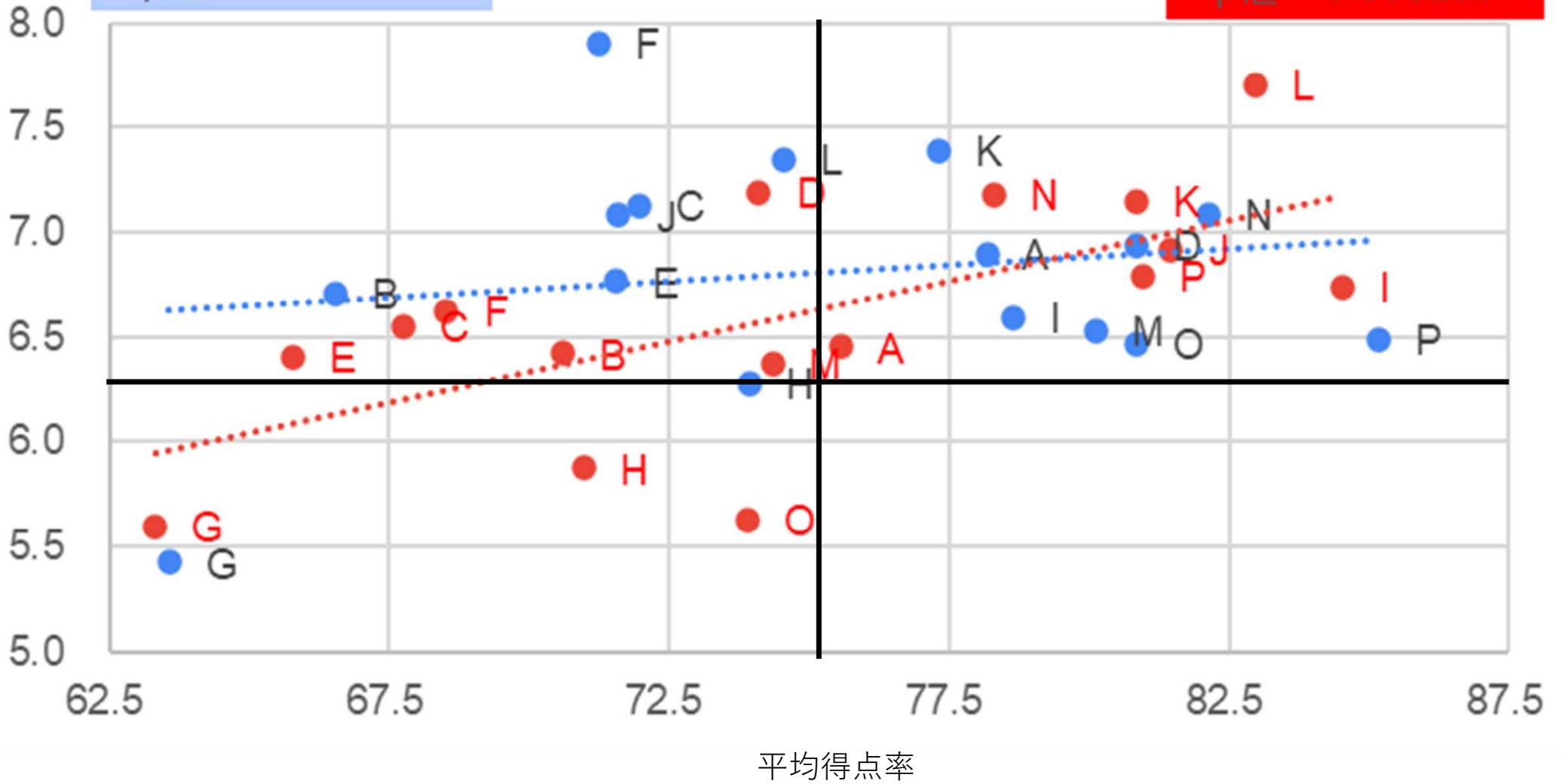
幸福度別得点率（全体平均100）



$y = 0.0152x + 5.6647$
 $R^2 = 0.0261$
p値 = 0.550063

学級単位 7月青、9月赤

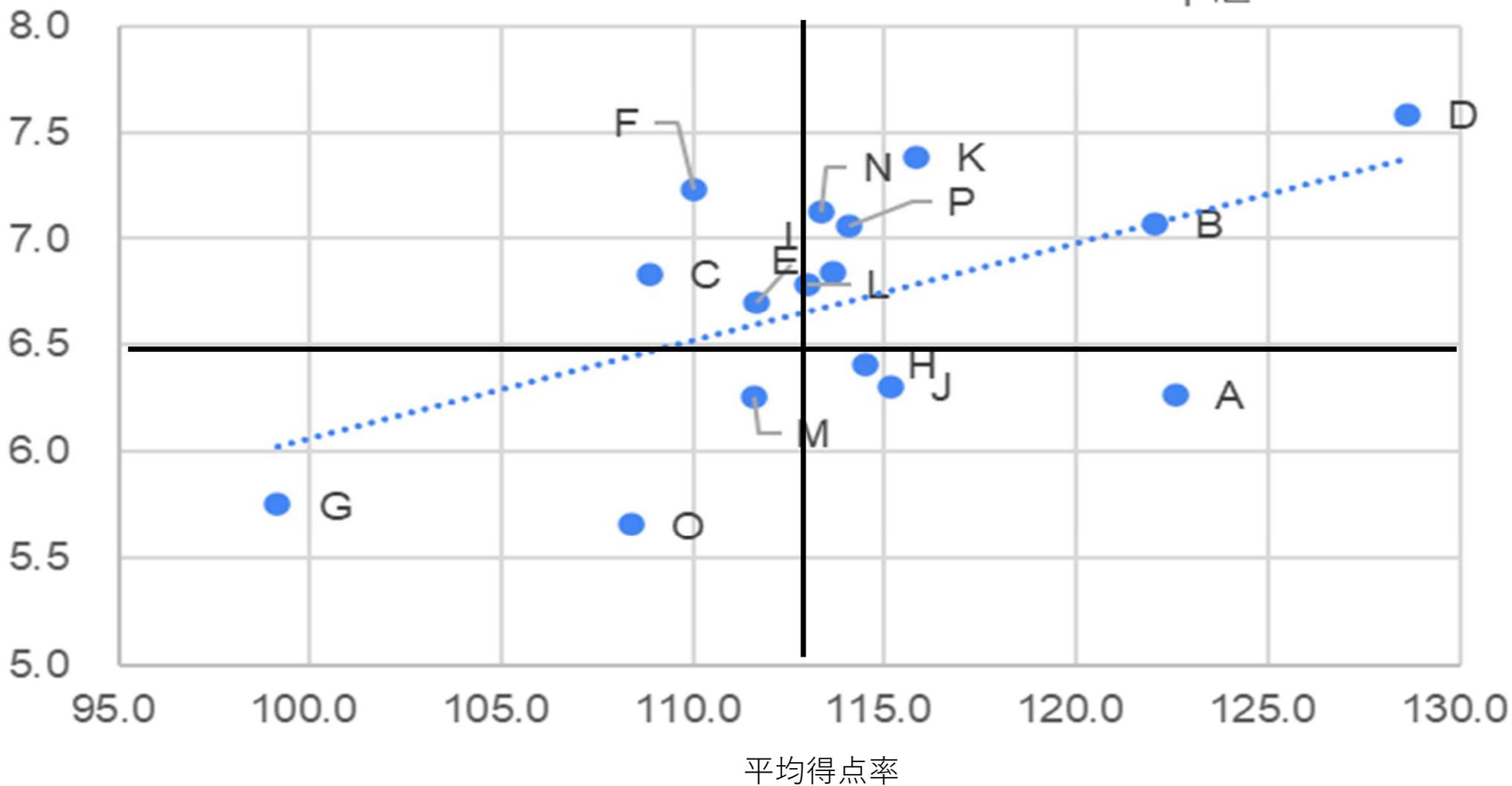
$y = 0.058x + 2.2721$
 $R^2 = 0.4244$
p値 = 0.006260



10月11月学級単位

$$y = 0.0461x + 1.4573$$
$$R^2 = 0.3037$$
$$p\text{値} = 0.026942$$

学級平均幸福度

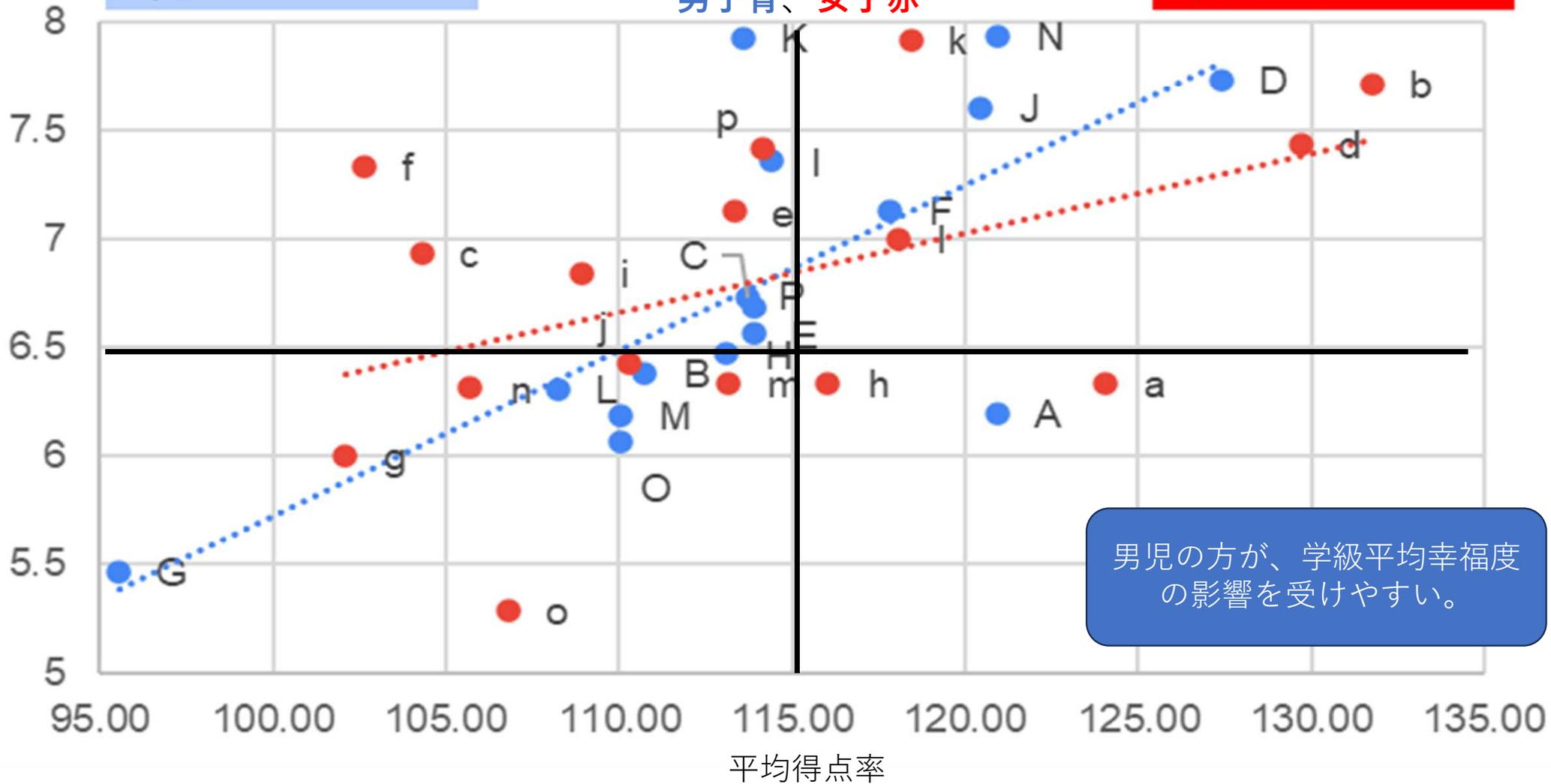


$y = 0.076x - 1.8735$
 $R^2 = 0.531$
 p値 = 0.001365

男女別（10月）

男子青、女子赤

$y = 0.0365x + 2.65$
 $R^2 = 0.2255$
 p値 = 0.063048

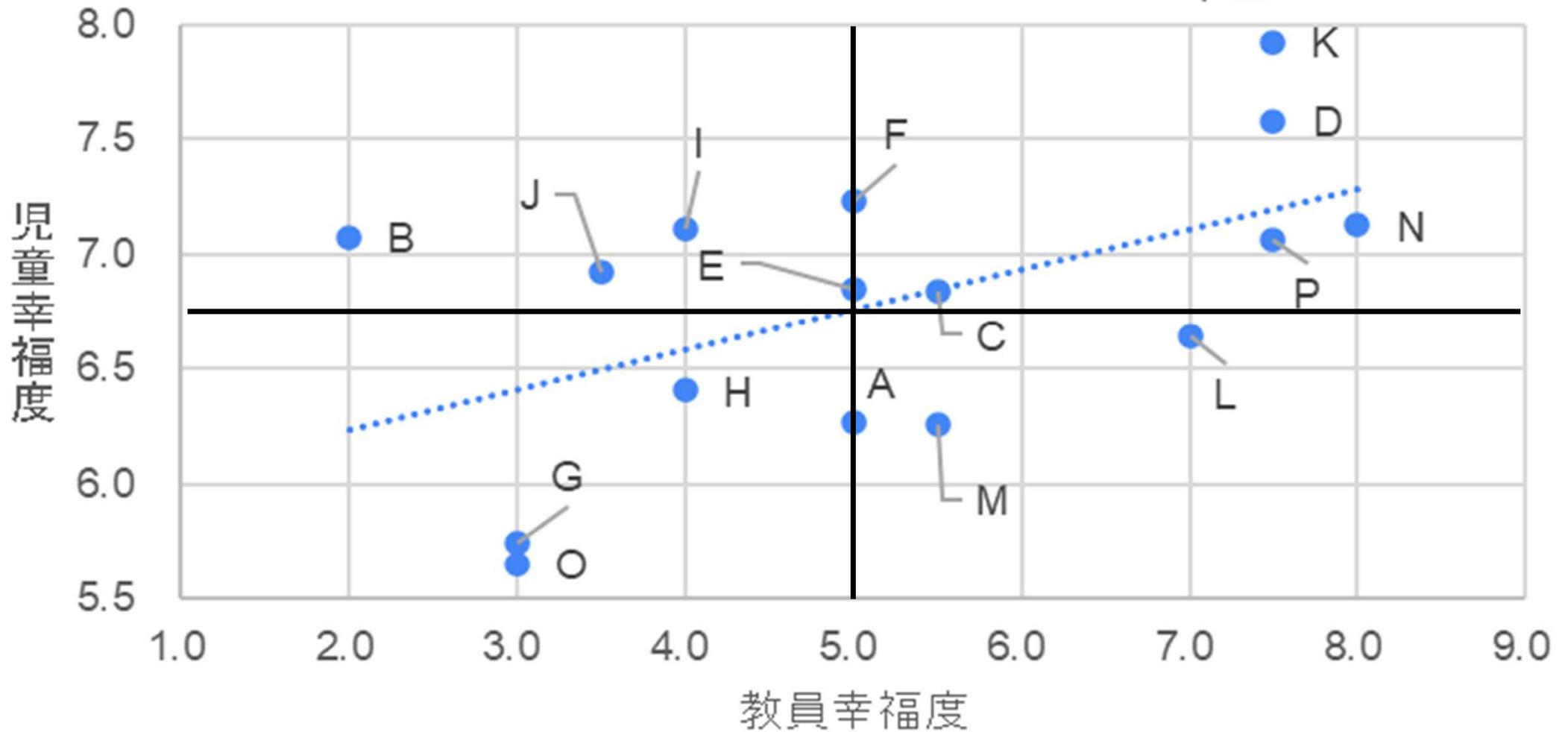


男児の方が、学級平均幸福度の影響を受けやすい。

学級平均幸福度

児童幸福度×教員幸福度

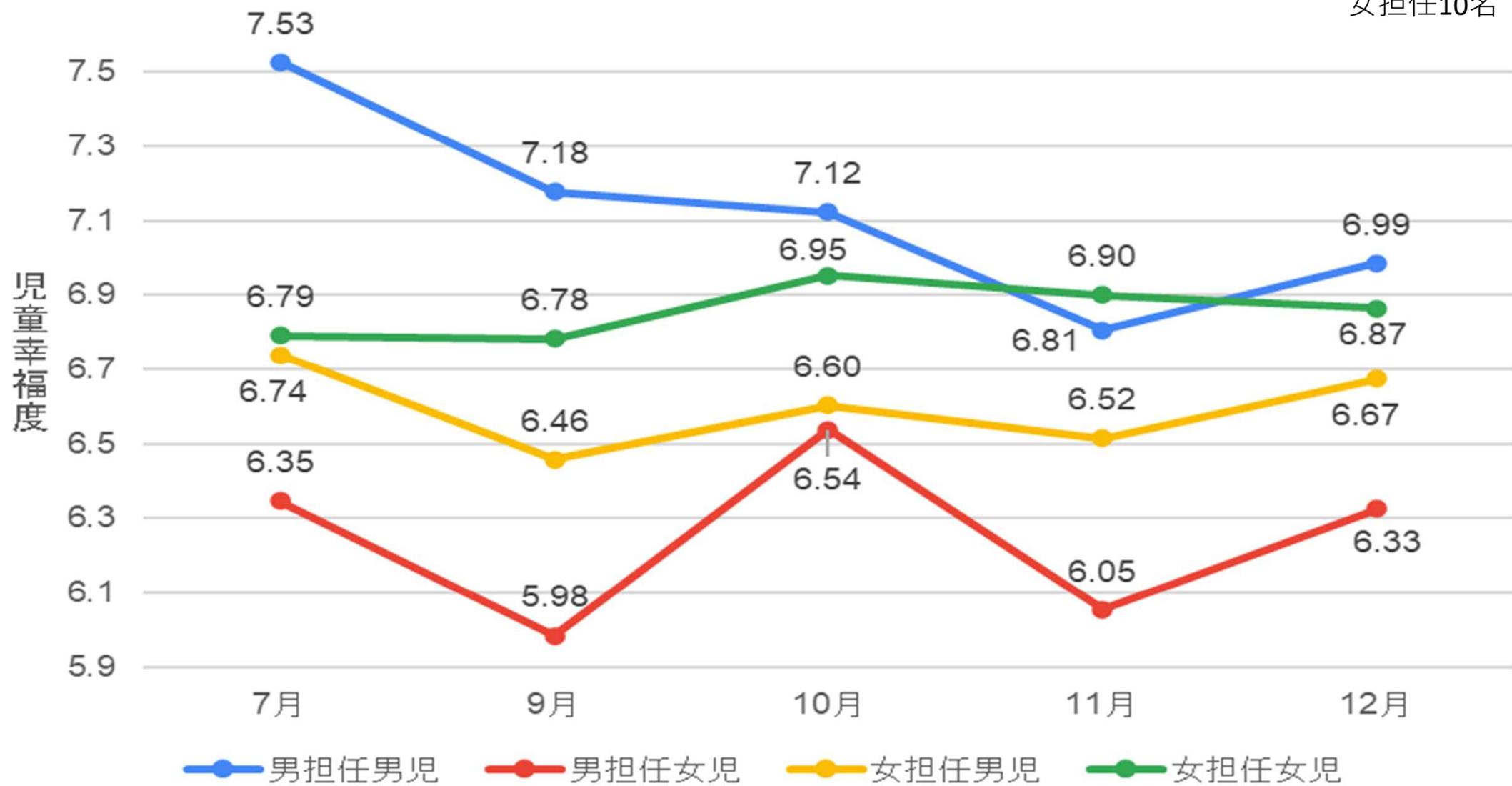
$$y = 0.1756x + 5.8819$$
$$R^2 = 0.2926$$
$$p\text{値} = 0.03048$$



教員の幸福度と担任学級児童の平均幸福度には、相関がある。

担任の性別による児童幸福度

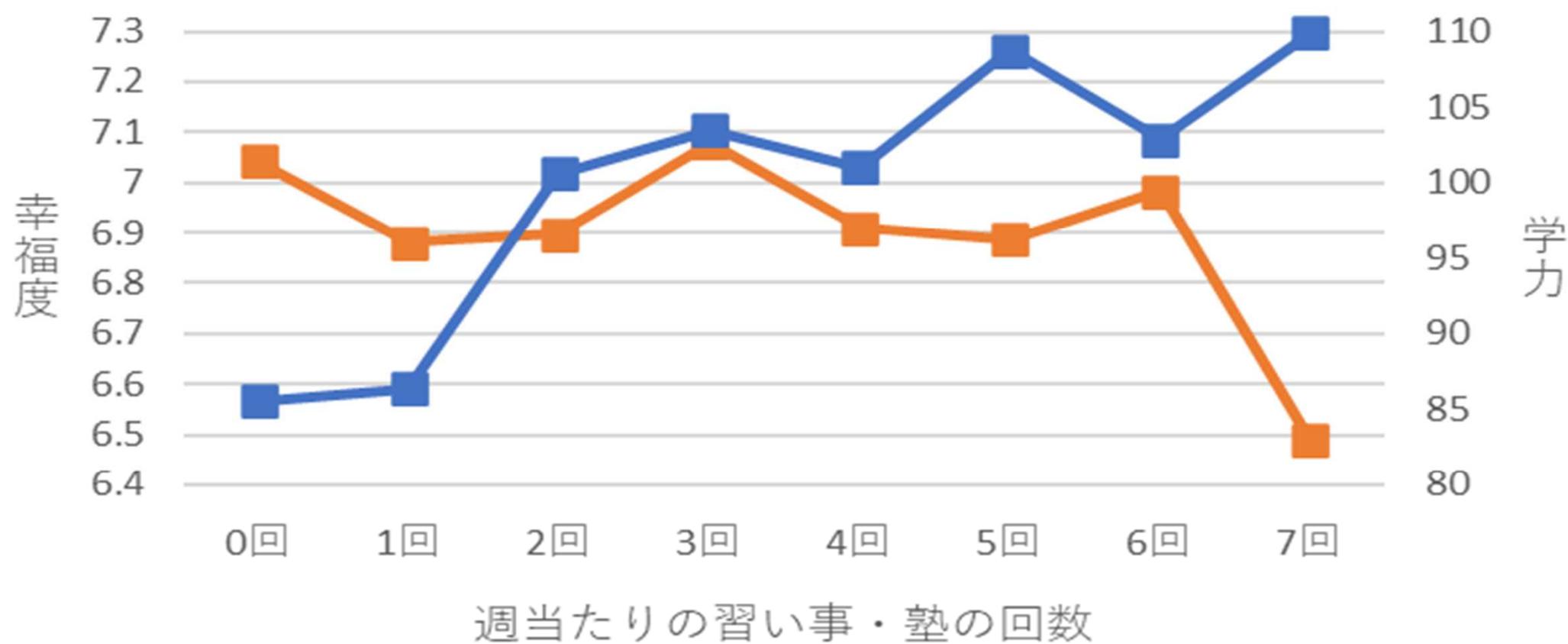
男担任 6名
女担任 10名



習い事・塾 × 幸福度 × 学力

(学校平均100)

幸福度 学力



研究課題 2

児童の幸福感と学力の両立を図るために必要なのはなにか。

幸福度の高いクラス担任がしていること

- ほめ言葉のシャワー（日直をほめる。ほめ言葉をグループやみんなで言う）
- 取組への価値付け、意味付け、確認（何のために行うのか）
- 花丸をためて、入れ物がいっぱいになったらお楽しみ会
- 怒ったら、後で必ずフォローを入れる
- 全員の子に毎日話しかける
- ウェルビーイングトランプ（いろいろな人と話す）
- 分からないと言える安心感作り（失敗を笑えあい、一緒に楽しめるゲーム）
- お互いの長所と短所を補い合おう（給食の完食）
- 児童の言葉遣いの観察（いじめの種つぶし、アドバイスの聞き方）
- 教師自身が幸福度を高く
- 子供の小さな成長に気づき、価値付ける。

学力の高いクラス担任がしていること

- 生活に勉強を落とし込む（勉強の価値付け意味付け）
- 宿題の意味を語る。（自主勉は学習習慣の確保の意味がある等） k
- 午前中に国・算・社を入れる。
- 授業時間を延ばさない。
- 自学ノートの学級全体への紹介
- テストをした日にすぐ返却するやればできるの体感（こまめな小テストでいい得点を取らせる）
- テスト前には、自主学習でテスト勉強をさせる。
- アウトプットで定着を図る。
（教え合いで学力の2極化防止）

学校でどんな時に「幸せ」が高まりますか。

1	授業が、よくわかった時	12	こまっている時、友達が教えてくれた時
2	授業で、成長を感じた時	13	こまっている友達に、教えたら分かってくれた時
3	授業で、友達より早く上手にできた時	14	先生のきげんが、いい時
4	パソコンを使った授業の時	15	先生に、ほめられたり、みとめられたりした時
5	テストで、高い点を取った時	16	先生が、はげましたり、おうえんしてくれたりした時
6	宿題が、少ない時	17	先生が、大切なやくわりをまかせてくれた時
7	勉強や係などで、やり方を自分で決められる時	18	先生が、学ぶことの目的や意味を教えてくれた時
8	自分の行いが、だれかの役に立ち、喜んでもらった時	19	先生が、自分の成長やがんばりに気づいてくれた時
9	好きなことや遊びが、たくさんできた時	20	先生が、分かるまで教えてくれた時
10	友達となかよくすごした時	21	先生が、落ちこんでいる時に気にかけてくれた時
11	友達と協力し、助け合い、はげまし合った時	22	その他

研究課題 3

教師のウェルビーイングの向上に必要なものは？

教師のウェルビーイングの4要素 (第4期教育振興計画)

- ・ 子供の成長実感
- ・ 保護者や地域との信頼関係
- ・ 職場の心理的安全性
- ・ 良好な労働環境

今後の課題

- 結果をshareする場が、校内の電子掲示板での紹介にとどまる。研修職員会などで、対面に対話を行い、学校全体に幸福感と学力の底上げを測りたい。
- 教師のウェルビーイングを高める実践を行っていない。教諭としてできること、教頭、校長としてできることを整理して、実践、提案していきたい。

参考文献

- 露口健司（2024）『教員のウェルビーイングを高める学校の「働きやすさ・働きがい」改革』教育開発研究所
- 妹尾昌俊（2023）『校長先生、教頭先生、そのお悩み解決できます』教育開発研究所
- 久我直人（2015）『教育再生のシナリオの理論と実践』現代図書
- 桐生正幸（2023）『カスハラ of 犯罪心理学』インターナショナル親書